

JDSF の社団法人化申請趣旨

2001年7月19日

日本ダンススポーツ連盟 (JDSF)

1. 背景

<1> ダンススポーツがオリンピック種目になろうとしている。

- ・ IOC はダンススポーツをオリンピック種目に加える方向で動いており、開催国の判断次第という状況。2008年北京大会、2012年に期待が高まっている。
- ・ ワールドゲームズではすでに公式種目。1998年のアジア大会では公開競技であった。

<2> ダンススポーツのオリンピック責任団体として JDSF の公益活動の規模が大きくなり、任意団体のままでは社会的責任を全うすることが難しくなっている。

2. 日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) について (別紙 1 参照)

<1> JDSF は、わが国における唯一のダンススポーツのオリンピック責任団体。

- ・ JDSF は、IOC に認められたダンススポーツの IF (国際ダンススポーツ連盟・IDSF) メンバーであり、NF としての国内活動とともに、活発な国際活動を行っている。
- ・ IDSF の理事を長年にわたって輩出し、国際的なダンススポーツの普及に貢献している。
- ・ アジアオリンピック評議会 (OCA) に認められたアジアダンススポーツ連盟 (ADSF) の会長を輩出し、アジアにおけるダンススポーツの発展に寄与している。
- ・ IDSF 世界選手権の開催、IDSF 公認国際競技会の毎年開催、ワールドゲームズ 2001 秋田でのダンススポーツ競技会の主管、世界各国の公式競技会への選手・役員派遣など、21 年間にわたり数々の国際協力の実績がある。

<2> わが国におけるダンススポーツのアマチュア統括団体

- ・ (財) 日本体育協会に加盟 (準加盟) して、将来の国体参加を目標としている。
- ・ 25 年の歴史を持つ地域のダンススポーツのクラブ・サークル活動をベースに、各県にダンススポーツ連盟を持ち、各県ダンススポーツ連盟が県体育協会に加盟している。
- ・ 会員は地域のダンススポーツのクラブ・サークルに所属する者と、全日本学生競技ダンス連盟であり、約 5 万人。

<3> オリンピックに向けたアマチュアとプロ協力組織

- ・ ダンススポーツ・オリンピック準備委員会を組織し、必要に応じてプロ団体と協力してアマプロ問わないダンススポーツ競技会など共同事業を企画実施している。
- ・ ワールドゲームズ 2001 秋田への日本代表選手は、アマプロ・オープンの選抜競技会にて選考されたもので、本年 8 月の大会に派遣される予定。

3. JDSFの考えるダンススポーツとオリンピック

<1> 仮説として、2012年のオリンピックで日本代表選手がメダルを獲得することを目標に置き活動する。

<2> トップ選手の競技力向上と地域でのダンススポーツの普及が必要。 (別紙2参照)

- ・ 現在の日本のダンススポーツ選手は諸外国に比べて高齢化している。
(ダンスの風俗営業適用による弊害として、青少年への普及が遅れている)
- ・ 歴史的に他の競技スポーツに比べてプロが多く、過去において社交ダンスと教室営業・競技会とを組み合わせたプロ活動が発展に寄与したものの、地域まで行き届いた真のダンススポーツの普及には至っていない。
- ・ トップ選手を2012年までに国際レベルに引き上げる為には、地域での若年層(2012年を想定すると12歳前後)へのダンスの普及が急務である。
- ・ 上記の状態に鑑み、わが国のオリンピック選手を育てる為には、地域密着型のクラブ・サークル活動がベースとなる。

<3> 地域に密着したダンススポーツの組織であるJDSFの公益活動の更なる活発化が必須

- ・ 高度な指導能力を持ったプロとの協力を得ることで、JDSFにはこの目的を達成することが可能な組織基盤がある。

4. すでに財団法人である「日本ボールルームダンス連盟」との関係(JDSF案)

<1> JBDFは、プロ教師により運営されている団体として、風適法下でのプロ教師資格発行事業、日本レクリエーション協会に加盟して指導員制度を含むボールルームダンスとダンス文化の普及事業、およびプロ部門・アマ部門の競技会開催を行っている。

<2> JDSFは、オリンピック・国体を目指すスポーツとしてのダンススポーツ普及事業を行っている。

<3> 両者は目的が異なっているので、会員はそれぞれの目的を選択して登録すればよい。一部共通部分(アマチュア競技会部分など)では、互いにより良い競技会の提供に努力することで、わが国のダンス界全体に貢献できるものとする。